

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」河内松原校			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		～	2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22人	(回答者数)	20人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 10日		～	2025年 11月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様が楽しい気持ちで来所し、次に来所するのを楽しみにできるよう、楽しく頑張って取り組める支援を提供すること。	ミーティングでの支援内容・方法の交流を通して新たなプログラムや支援提供時の工夫・改善。指導員が自分の持ち味を活かした支援が提供できるように、毎日のミーティングで意見交流しプログラムを企画している。	指導員のお子様へのさらなる理解、保護者様の思いをしっかりを受け止めることができるよう、また、充実した支援が提供できるようにスキルアップを図る。
2	保護者様の不安やご要望を丁寧にお聞きし、対応させていたいただくこと。	来所されたときやモニタリングでの保護者様の不安やご要望等のお話の聞かせていただき、一緒に支援の方向性を考えている。また、パパ・ママカフェでの保護者様同士の交流を通して、不安の解消や気づきの機会としている。	子育てサポート加算を活用し、支援を見ていただきながらいろいろな相談をお受けするなど保護者様の支援をさせていただく機会を増やしていく。
3	関係機関(保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校・支援学校・高等学校)を訪問しお子様の様子を情報交換し一緒に支援について考えていく連携を深めていること。	学校園でのお子様の様子を見学させていただいたり、先生と情報共有・意見交換をすることを通して、支援の方向性を確認したり、それぞれでの取り組み工夫を共有している。	今後も保護者様のご要望に沿い、関係機関連携の機会を増やしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別療育であるため、他のお子様との関りや集団として互いに関係を作っていく機会が、普段の支援の時間には設定が難しい。 個別療育だけでなく、集団療育を取り入れた支援をいかに提供していくかが課題である。	個別療育であり、利用者様同士の交流の場を普段の支援の時間での設定が難しい。	個別支援の良いところを活かし、指導員が一人のお子様と一対一のかかわりができるように利用定員を5～6人としている。内容・方法を工夫し、イベントとして小集団療育の機会が設定ができればと思う。
2	定められた支援時間内に、課題の解決につながる支援を提供するため、さらに内容を深めた支援を提供するには時間が足りない場合がある。	支援の振り返りも含め60分で設定しているため。	お子様の状況や保護者様のご要望により100分支援を行っている。その中で、お子様の集中力を維持していくため、楽しく取り組める課題やリフレッシュできる時間や課題を提供できるように工夫している。
3	遅い時間帯のご希望も多く、17時～と18時～の時間帯に集中してきている。そのため、お休みをされた際の振替や追加利用の時間をお取りしにくいときがある。	指導員の人数の関係や利用定員から、個別支援は同一時間に4コマが限度となっている状況である。	振替や追加利用のご希望をいただいた場合、可能な限り調整させていただいている。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」河内松原校

公表日 2026年2月14日

利用児童数 22人

回収数 20人

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	1	0	0		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	18	0	0	2		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	3	0	0	職員の名前がはっきりと分からないので子供も戸惑う場面があるみたいです。名字だけでもひらがなで名札を付けて貰えると嬉しいなあと 생각합니다。子供はあの先生知ってるけど名前知らんし、どうしよう…と なるみたいです。親子で話をする際もあの先生…どの 先生？と会話がし辛く、聞いただけではなかなか 覚えられないので視覚で分かる様な工夫があると助かります。入室時、子どもが他の子のスペースを自 分のところと勘違いする時がある。入室時、子どもが 他の子のスペースを自分のところと勘違いする時がある。	・職員の名前がわかりやすいように顔と名前を記載した掲示物を用意するよう検討中です。 ・お声掛けによる誘導を行うのが前提ですが、困った時に助けを求めるという狙いのもとで、あえてお声掛けをしない場合もあります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20	0	0	0		
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	0	0	0		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	1	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12	1	0	7	・質問内容がよく分からなかった未就学なので不明 ・未就学なので不明	個別の療育なので、他の地域のお子様と関わりを持つ機会はありません。
保護 者へ	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	4	0	6		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	20	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20	0	0	0	どういう保育園が良さそうか、加配についてなど相談に乗って頂いたかどうか、加配についてなど相談に乗って頂いた	定期的に面談を行い、適宜ご相談や助言を行なっております。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	0	0	0		

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	3	1	13	保護者同士の繋がりも欲しいと感じるときがある。自力では仲間が探せない。	保護者の方々の交流できる機会を今後企画し、ご周知させていただけるよう検討していきます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17	0	0	3		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12	4	0	4		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	0	0	0		
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	2	0	0	地震等の時の事も契約時に丁寧に説明がありました。	各マニュアルを策定しており、保護者様に周知を行なっています。訓練も発生を想定して行なっています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	3	0	7		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	2	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	0	0	5		
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19	1	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17	3	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	19	1	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」河内松原校				公表日 2026年2月14日	
		チェック項目	はい	いいえ	ご意見	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・ミーティングルームを利用したり、パーティションで仕切り、十分な場所を確保している ・児発のお子さんが多い時間であると少しスペースが狭い ・パーティションは使って利用スペースの調整ができる	活動スペースをこれ以上増やすのは難しいため、今後も工夫しながら調整を行っていきます	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・見守りが手薄になってしまう事がある ・利用者の人数に合わせた配置が難しい事の方が多い	職員の人数としては少ない方ではないため、創意工夫と見守りができるように各職員の連携を強化していきたいと思います	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・各指導員の視点で工夫ができています	自分の活動スペースがどこなのかわかるようにお子様をうまく誘導できていると思います	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・アルコール消毒の使用や除菌ができています	毎日のミーティング前に掃除を行っています。消毒は都度行なうようにしています	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・指導員同士で共有して使用ができています	支援前に声を掛け合い、必要な場面では個室を利用する事ができています	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・毎日ミーティングを実施している ・できるだけ毎日ミーティングを設け、共有や発信ができています	ミーティング時に一人ずつ周知事項の有無を確認しています	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・外部評価の機会がない ・外部評価について何も知らされていない		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・研修の種類が多く、外部研修の参加にも肯定的である	研修の機会は多いと思います	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・プログラムの公表はしていない ・各指導員、個別支援計画を元に狙いのあるプログラム作成の工夫ができています	各活動に狙いを持って行うように各職員が意識してくれています	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・モニタリングにて担当者・児発管が同席し、保護者のニーズとこどもの課題を共通認識する機会がある	ニーズや課題が新たに生まれた際は、ミーティングにて周知を行い、それぞれの意見を募る機会を設けています	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・モニタリング結果表を活用し、課題・現状の共有目標について検討している ・モニタリングにて担当者・児発管が同席し、保護者のニーズとこどもの課題を共通認識する機会がある	共通理解を持つことができるよう、ミーティング時に意見交換などを行う機会を設けています	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・計画やモニタリング結果、保護者との話等を共有し、支援に活かしている ・いつでも誰でも見れるようになっている	個別支援計画はどの職員もいつでも確認できるようになっています	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・活動記録・アセスメントシートなど、情報の共有ができています	標準化されたアセスメントシートを用いています	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・ミーティングで課題を共有したり、職員間で相談し、プログラムを立案している ・担当制により、個人での視点の元の方が多い	個人視点の作成が多くなっていますが、いつでも相談できる環境になっています	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・ミーティングで課題を共有したり、プログラムの立案をし、固定化しないようにしている	それぞれのお子様に合わせて工夫をしながら日々の活動内容を作成しています
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		○	・毎日のミーティングで行っている ・集団活動が最近できていない ・集団活動の機会が少なくなった	1時間という枠の中で集団活動と同じタイミングで行う機会を設けるのは難しさがあるように感じます
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・前ではないが、毎日のミーティングにて共有の機会がある	チーム連携が必要な場面では声を掛け合い支援を行っています
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・担当者判断ではあるができています	毎日のミーティング時に気付いたことなどを共有する機会を設けています
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			日々の記録をとることは徹底して行なっています
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・6ヶ月ごとのモニタリングを実施	モニタリングを設定し、個別支援計画の目標の継続・終了などの見直しを行っています
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・指導員は活動の都合で参加できない場合がある。こどもの関わり方などは児発管によって変わるのでわからない	可能な限り管理者と担当職員が参画できるようにしています
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・児発管によって必要性の感じ方が異なるためわからない。校舎としての明確な方向性はない	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・児発管によって必要性の感じ方が異なるためわからない。校舎としての明確な方向性はない	併行利用や移行を意識した支援を行っています。ご要望に応じて情報の共有を行っています
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	・保護者を通して行う時がある ・必要に応じ、また保護者の要望により実施している ・児発管によって必要性の感じ方が異なるためわからない。校舎としての明確な方向性はない	保護者の要望に応じて情報共有の用意ができています
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○	・わからない	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	・保護者の要望や事業所が必要と判断する場合に実施	事業所外の交流を持つ機会を設けるのは難しい
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・支援の後、フィードバックの時間を設定し、共通理解を図っている	利用ごとにフィードバックの時間を設けているので、課題についての共通理解はできていると思います
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			研修情報についての収集はしているが、家族支援プログラムについての情報は少ないのが現状です
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			見学時や契約時に丁寧な説明を心掛けています
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			モニタリングを行う際に家族の意向を確認しながら、こどもの最善の利益を考慮しています

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			モニタリングに基づいて作成し、保護者からの同意を得ています
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・モニタリングの機会を設定	家族のお悩みなどの相談に適宜面談を行うなどして適切に対応しています
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・保護者同士の機会は減ったが、きょうだい同士で交流はある ・保護者に来ていただく時間が作り出せず、機会が設定できていない	保護者同士の交流を求めのお声もあり、保護者会の開催を検討しています
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			いつでもご相談いただけるよう、体制を整えており、相談があった際には迅速に対応しています
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・SNSや掲示をしている	月に1度はSNSを更新して活動の情報を発信しています
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			個人情報は鍵付きの書庫に保管しています
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			相手にわかりやすく説明する事に努めています
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	・個別療育でなかなか機会が設定できていない	地域の住民を招待する企画を現在のところ行っていません
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			各マニュアルを策定し、誰もが見える場所に掲示しています。発生を想定した訓練も適宜行っています
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			BCPを策定し、定期的に必要な訓練を行っています
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			アセスメントシート・フェイスシートを通じて情報収集を行っています
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	・食物アレルギーのこどもがいないため	事業所の提供で飲食する事がないため、食物アレルギーの指示書をもらうという事例がない
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			安全計画を作成し、法人の研修・訓練を受けています
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・フィードバックにて共有ができている	こどもの安全確保の連携は周知できていると思います
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハットではないが、全体ミーティングその他で共有し、再発防止に向けて話し合いをしている	ヒヤリハットは職員が誰でも見れるようになっています。事例に関しては再発防止に向けて共有しています
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・研修にて学ぶことができる	虐待防止研修に参加し、適切な対応ができるように努めています
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・担当者判断になりがち、校舎としての方向性やルールはわからない	やむを得ず身体拘束を行う必要性が感じられる場合には、組織的に決定し、切迫性・非代替性・一時性が満たされているか慎重に検討します